

「経口摂取が困難になった場合の栄養方法」について

経口摂取が困難になり、食事を拒否したり、自分から食べようとしないとき、あるいはどうしても口から飲み込むことが出来なくなったときの基本的な栄養方法については、

- ① 口からたべたりのんだり出来る分のみで、できるところまでにする。
- ② 人工的な水分・栄養補給方法を行う。

二通りの考え方があります。

嚥下(のみこみ)が困難なときの水分・栄養補給方法について

回復不可能なご病気や年齢のために嚥下がむつかしくなると、十分な栄養や水分をとることができず誤嚥性肺炎を起こす可能性が高くなります。しかし、「口から食べる」可能性を追求し自然な形で過ごすため、まずは介護する方の協力のもと下記の方法で経口摂取の努力をつづけます。

● 食事形態の工夫

ミキサーなどで食事をこまかくする。とろみ剤や市販のゼリー状の食事などを用いる。

● 吸痰手技(痰を吸い取る方法)の習得

食事がのどにつまったり、口の中のにこったときに、それらを痰とともに吸い取る。

● 言語聴覚士・歯科衛生士・歯科医師の指導をうける

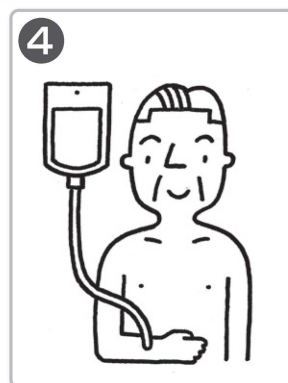
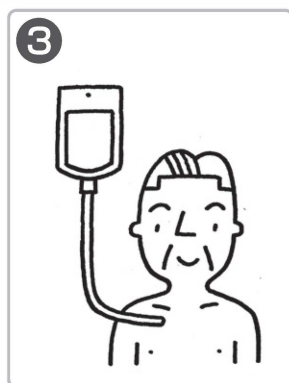
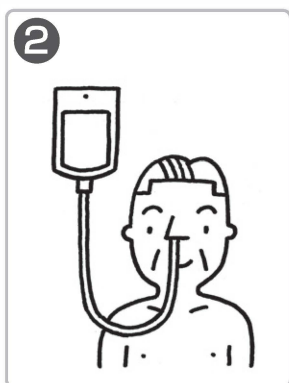
嚥下機能評価、嚥下訓練をおこなう。

※ご本人の意思疎通が可能な場合は、舌の運動・発声練習なども効果的です。

これらの方法をためしても困難な場合は、水をなめさせ、スポンジで口の中をきれいにするなどして、ご本人が心地よくすごせるようにします。

人工的な水分・栄養方法について

医学的理由で希望どおりに出来ない場合がありますが、人工的な水分・栄養補給方法には下記①～④があります、それぞれ利点・難点があります。



- ① 胃 瘻 …………… 内視鏡手術で胃に穴をあけて栄養剤を注入
- ② 経鼻経管栄養 …………… 鼻から胃にチューブを入れて栄養剤を注入
- ③ 胸部中心静脈からの高カロリー輸液 …… 小手術を要す
- ④ 点滴 …………… 水分と少量の栄養のみ

1. 胃瘻（内視鏡手術で胃に穴をあけて栄養剤を注入）

- 利点**
- 腸管から栄養を吸収するため、栄養方法として優れている。
 - 胸部中心静脈栄養にくらべて感染の危険性がすくない。
 - 半固形栄養を使用すれば、介護者は5～10分程度で注入をおえることができる。流動食では1～2時間かけて滴下する。
 - 臓器機能が正常であれば、数年単位の延命が可能となる。

- 難点**
- 栄養剤の逆流や慢性誤嚥による誤嚥性肺炎の危険性がある。
 - 最初は胃カメラで小手術を行い、胃から腹部に瘻孔を作成する必要がある。約6ヶ月毎に胃瘻ボタン交換処置が必要。
 - ベッド上生活が中心の要介護状態で意思疎通不可能となっても数年間の延命が可能なが多く、介護者の確保が困難な場合がある。

2. 経鼻経管栄養（鼻から胃にチューブを入れて栄養剤を注入）

- 利点**
- 腸管から栄養を吸収するため、栄養方法として優れている。
 - 胸部中心静脈栄養にくらべて感染の危険性がすくない。
 - 手術が不要。

- 難点**
- 半固形栄養を使用することができないため1～2時間以上かけて流動食を滴下する必要がある。
 - 細くて長いチューブを使用するため、閉塞することがある。
 - 定期的（2～4週毎が多い）に交換する必要がある、その度に挿入の不快感が少なからずある。
 - 栄養剤の逆流や慢性誤嚥による誤嚥性肺炎の危険性がある。
 - 誤ってぬいてしまうことがある。

3. 胸部中心静脈からの高カロリー輸液（小手術を要す）

- 利点**
- 水分補給の外、十分なカロリーを点滴することができる。

- 難点**
- 局所からの感染のリスクがあり、ときに敗血症を引き起こすことがある。
 - 誤って抜いてしまうことがある。
 - 小手術が必要となる。
 - 閉塞した場合は再手術が必要になる。

4. 点滴（水分と少量の栄養のみ）

- 利点**
- 簡便に水分補給ができる。血管確保が困難な場合でも、皮下点滴が可能。

- 難点**
- 生命維持に必要な栄養をおきなうことができない。
 - 誤って抜いてしまうことがある。
 - 静脈からの場合、点滴もれすることがある。
 - 浮腫（むくみ）がよくなることがある。

5. これらの人工的な方法によらず、口からたべたりのんだり出来る分のみの場合

- 利点**
- 「口から食べたい」という希望にそって、自然な形で過ごすことができる。
 - 本人の意欲と嚥下機能の範囲で水分摂取するため、浮腫がすくない。

- 難点**
- 介護者が積極的に食べものを口にはこんだり、はみがきが不十分な場合誤嚥性肺炎のリスクがある。睡眠薬や鎮静薬を使用している場合はとくに誤嚥のリスクが高くなる。生命維持に必要な栄養と水分をおきなうことができない。